

ほふる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
(カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい)
【今月の一冊】デフレ救国論
増田 悦佐 著 徳間書店
ホームページ URL <http://www15.ocn.ne.jp/~prime21/>

発行日 2013年3月1日 Vol. 125
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
代表取締役 渡 邊 敏 徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

アベノミクス

昨年の暮れに政権交代が行われ、政治や経済の世界も大きく変わろうとしています。そして、「アベノミクス」や「アベクロ・バブル」(安倍・黒田)という言葉が耳に入ってきます。黒田日銀総裁の人事も加わったアベノミクス・バブルで市場は沸き立っています。

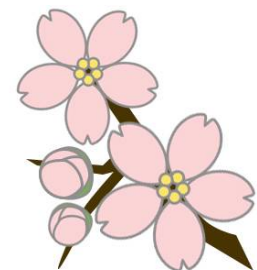
3月のはじめには東京証券市場で、ついに日経平均株価が1万2000円の大台に乗りました。実に4年5ヶ月ぶりのことになります。そして、安倍政権の唱える“円安・インフレ”誘導で実際に日本の景気が良くなるという期待が大きいように見えてきました。

しかし、本当にそうなのでしょうか。「日本企業の収益が落ち込み、連動してサラリーマンの給与も下がり、倒産が増えているのは、すべてデフレのせいである。デフレが一層の円高を招き、輸出型企業の日本脱出を促し、国内雇用を減茶苦茶にしている・・・」。

このような「デフレこそが諸悪の根源」という雰囲気世の中に蔓延しているように思うのです。今、日本は“穏やかなデフレ”の状態にあります。しかしながら、“穏やかなデフレ”状態にあるということ自体「デフレこそが諸悪の根源」という考え方とまったくあい入れない話になります。デフレは必ず失業者を増やし、物価が下がり、賃金が下がるという負のスパイラルが進む。そのスパイラルが進むことにより、1930年代のアメリカのような大不況に陥り、勤労者の3分の1が職を失うような大量首切りが断行され、国民の生活水準も激しく落ち込み、経済全体が著しく収縮するという壮絶な世の中が訪れる・・・と。

日本では1990年代の後半からかれこれ14、5年、消費者物価指数で0. 数パーセントから1. 数パーセントくらいのデフレが加速もせず、減速もせずに続いています。悪循環で被害がどんどん拡大しているという世の中ではありません。

20世紀の100年を通じて、深刻なデフレはたった1回しか起きていません。1929年にアメリカで金融パニックが起きて、大不況が暫らく続きました。しかし、その大不況の四半世紀前も長期にわたりデフレだったのですが、積極的な公共投資が活発に行われ不況にはなっていませんでした。



「デフレは悪、インフレは善、デフレ＝不況」ということを少し疑ってみることも必要かもしれません。「アベノミクス」にならないことを期待したいと思います。

寿命

聖マリアンナ医科大学病院放射線科の滝澤謙治教授は『日本が世界に誇る名医100選』にも紹介され、X線、超音波、CT、MRIなどの画像診断の下にあるカテーテルテクニックによって体内の病変部を治療する専門医である。また、ザ・ベストハウス123のスーパードクターとしても紹介されました。実は私の従兄です。

がんの局所療法による緩和医療や医療機器の開発や研究に積極的に取り組んできました。様々な技術や道具に次々と画期的な改良を加え、患者さんのクオリティーライフを飛躍的に高める治療を生み出してきました。「骨セメント注入療法」が発揮するがんの骨転移への治療に効果があり、痛みを軽減させる治療法です。

「手の尽くしようのなく辛い思いをしている患者さんを目の前にした時の、どうしたらいいのだろうという思いから、常に新しい技術や道具の研究に取り組み始めました。技術を習得し、自分自身のスキルを誇っているだけではそこで終わってしまう。全体に寄与するような心構えが必要だ」と言っています。また「世界をリードするような革新的な開発を常に工夫し、独創性のあるものを作り出していく心意気大切だ」とも言っています。

そんな彼が亡くなったという訃報が入りました。“がん”でした。58歳という年齢に本人もさぞ悔いの残ったことと思いましたが、『寿命だから』と言に残したそうです。大学病院葬に大勢の方が参列して頂き、「短い人生を全力で生き抜いた」との弔辞に会場中が涙しました。私も涙が止まりませんでした。



【座右の銘にしたい名言】



たった一度しかない一生を、本当に生かさなかったら
人間生まれてきたかいがないじゃないか。 (山本有三/作家)